



栗原小だより

新座市栗原 1-5-1 ☎042-473-7070

H P <https://e-kurihara-c-niiza.edumap.jp/>

～学校教育目標～
よく考え学ぶ子
心のゆたかな子
たくましい子



令和 8 年度 6 月号
令和 8 年 5 月 2 9 日

牛乳パックからコバトンが消えた…

校長 古澤 健史

【自分の舌を疑いながら…】

6年生の国語の授業でインタビューをするという教材があり、6年生からインタビューを受けました。その中で、「校長先生は、どんな仕事をしていますか。」という質問を受けました。仕事の1つに「最初に給食を食べて、安全を確かめている。」があります。

さて、4月10日(金)の最初の給食、いつものように「いただきます。」をして、ストローを差して牛乳を一口飲んだときです。「あれ？」と思いました。いつもよりサラッとあっさりしたように感じます。かといっておかしい味がするわけではありません。自分の舌を疑い、気のせいかと思いながら、パッケージを見ると県のマスコット「コバトン」がいまません。パッケージのイラストが変わって、コバトンがいなくなり、パックは開けやすくし、ストローなしでも飲みやすくなると年度末に聞いていたような…

【コバトンが消えた理由】

30分後、職員室内でもちょっとした話題になっていました。「味が変わった」という先生と「変わっていない」という先生の両方がいました。私だけではなかったと少し安心しながら成分表示を調べてみると、これまで100%埼玉県産牛乳だったのが国産に、乳脂肪分が0.1%下がっていました。「ちがいがわかる」という昔のコーヒーのCMフレーズを思い出し、少し得意になってしまいました。

放課後に担任の先生に聞いてみると、各クラスでは特に話題になっておらず、言われないと気づかないレベルかなと思いました。しばらく様子を見ると昨年度より牛乳の残しの量が減っていて、牛乳嫌いの子には飲みやすく感じているのかなと思われました。

【給食費の負担なしとの関係はないですが…】

授業参観・懇談会で複数の保護者の方

からご質問をいただきました。「給食費の実質負担なしのために給食の質が落ちてしまったのですか。」というものでした。それを受けて、メールを配信させていただきました。給食や子どもたちの成長や学ぶ環境に強い関心を持っていた感じ、心強く感じました。

さて、今回の牛乳の変化から考えさせられることがあります。コバトンがパッケージから消えたのは、埼玉県産の牛乳だけで製品を作ることが難しくなっているのかもしれないということです。

【牛乳だけじゃダメですか】

数年前のコロナ禍で学校が休校となり給食がストップした時に牛乳の在庫を大量に抱え、酪農家が困り、スーパー等で牛乳消費のキャンペーンが行われたことを覚えていませんか。それよりも前には、他県の議会で和食に牛乳は合わないから牛乳を給食からなくそう、別の県では代わりに特産のお茶を消費しようということが議題に上がり検討されました。一方でバターなどの乳製品が品薄になって困り増産が図られたことも記憶にないでしょうか。給食での消費は、各地の酪農家を守り、乳製品の安定供給を守っている一面があります。その安定供給に支えられ、給食の栄養価と価格のバランスが保たれているとも言えます。供給の母体は生き物なので、別の難しさもあります。暑さに弱い牛は消費の増える夏に生産性が落ちてしまい、空調にお金をかけるとコストが増大してしまいます。クーラーのない牛舎を動物福祉(アニマルウェルフェア)の観点から飼育の仕方に問題があるとする意見もあります。

一方で乳製品にアレルギーを持つ児童が増加し、全員がほぼ毎日飲むメニューとしてどうなのかという考え方もあります。食育はまさに社会そのものです。